

教養は親から

—— 家庭教育 3 例を考察 ——

李 燕

目次

はじめに

- 1、アルテミシニン（青蒿素）の研究代表者の家庭
- 2、SARS、新型コロナウイルスと戦った勇者の両親
- 3、貧困の母親からノーベル文学賞への薫陶

終わりに

はじめに

現在、新型コロナウイルスの状況の中、中国国内での教養が欠ける映像や文章についての報道から、筆者は考えた。なぜなのか。どのように解決するか。

改革開放後40年間、果たして素質教育（応試教育に対して、資質と教養を含める）が存在するのかについて、「素質教育は無いではないか」とある専門家が答えた。現時点で、素質教育とは、いわゆる音楽や体育ができる、絵が書けるということで、最終的には音楽や体育や美術が全部、試験科目になってしまい、結果として、このような素質教育は応試教育に変わってしまう。健康な身心を持ち、健全な人格を有し、逆境に負けない、目標達成に忍

耐強い人間の養成はどうなるであろうか。大事なものは親の教養であろう。

1、アルテミシニン（青蒿素）の研究代表者の家庭

a, 屠呦呦⁽¹⁾（1930年～）の名は2000年前の「詩経」の一句

「呦呦鹿鳴、食野之蒿」（鹿のゆうゆうとして鳴く、野のよもぎを食む）からである。浙江省寧波に生まれた。

父親は銀行員で幼小時代から西洋式教育を受けたが、読書が趣味である。屠家の最上階には書籍が多数あって、父親は書齋に読書し、小さな娘もそばにいて本を読む。意味がわからないが、漢方薬の本には絵があり、彼女がとても楽しみに絵で読書していた。それは彼女の小さい頃から漢方医学に対する趣味の種を植えてもらったようになる。

b, 兄弟に唯一の女の子として大事に育てられた

父親は銀行員、母親は学者家庭の育ち、彼女は3人の兄と共に小さい頃から良い教育を受けていた。5歳から両親に幼稚園に送られて、15歳から寧波の私立中に入った。しかし16歳のとき、彼女は肺結核にかかって、2年間学校を休んでいた。あの時代に肺結核になると生きていくのは容易ではなかった。この経歴があつてこそ、彼女が医薬を持って命を救うのに対して興味を持つようになった。「医薬の作用は不思議で、私は当時このように思った。もし医薬の技術を身に付けたら自分が病気を予防できて、たくさんの人命を救うことができる。とても楽しいことだ」と彼女が回憶している。

教育を重視する父親はすべての教育を、さらに娘を北京大学医学部での学業を完成させた。封建思想を強く残した20世紀の前半にもかかわらず、女の子が高校卒した後、また大学に入ったことは、彼女が幸運を享受できたというのであろう。

彼女の友達がとても羨ましく思ったことは、慈悲深い彼女の母親が、いつも娘の忙しい学業の生活に、自ら手作りにした娘の大好きな「腌香螺」（醤油漬のカタツムリ料理）を送って、娘の口と腹の欲を満足させていたことであった。

屠呦呦が14歳の時、彼女のお兄さんが彼女の1枚の写真の裏に一句の言葉を書いた。それは彼女が一生涯、よく覚えている言葉である。「呦ちゃん、学問をいくら学んでも終わりはないんだよ。だから一部だけの成功を収めたとき、絶対に満足しないでね。また、思わず失敗したとき、それにも失望しないでね。呦ちゃん、学問というものは、真心を持って求める人には失望をさせないんだよ」⁽²⁾。

心を開いた両親、慈悲深い母親、兄からの励み、屠呦呦は暖かい家庭の雰囲気の中で、心身と共に豊さを持ち主で、安心して研究を没頭にすることができた。

c. 誇りを心に、意義の持つ毎日の研究を過ごしている

屠呦呦はノーベル賞を獲得する前の50年間、彼女の研究チーム⁽³⁾は1971年までに、2000もの伝統的な漢方の調剤法を調べ、薬草から380もの抽出物を取り出し、マウスで実験してアルテミシニン（青蒿素）を発見、発明したのである。彼女はずっと仕事に情熱を持って、忍耐強く、名誉と利益と華やかさを望まなかったが、実験のプロセスの中で昔の民間法を使い、自分の身を人間として最初の試みをしていた。このように彼女の研究チームは、長年の間、マラリア原虫のアルテミシニン（青蒿素）の薬剤耐性を研究して、治療方案を提出した。アルテミシニンもエリテマトーデス等を治療できること、そして、国内外の専門家には、中国伝統的漢方医薬の科学研究の論著が高く評価された⁽⁴⁾。

屠呦呦は生まれてから両親に薫陶と教育され、心身ともに健康で、自分の理想を一步一步に追求して、逆境には負けず、研究の道を開拓してきた。彼女は父親から「詩経」の「呦呦鹿鳴、食野之蒿」（鹿のゆうゆうとして鳴く、野のよもぎを食む）によって名付けられ、そして父親が歌った「蒿草青青、報之春暉」（青青のよもぎ、春の光を報じ）のように、彼女の50年間以上の努力によって、何万人ものマラリアの病気の治療をおこない、またエリテマトーデスの治療に効果があると証明した。生まれてから民衆の期待を受け、そしてまた民衆に感謝する医薬品に貢献した。

2、SARS、新型コロナウイルスと戦った勇者の両親

a, 鐘南山⁽⁵⁾（1936年～）の子ども時代、楊振寧⁽⁶⁾の描いた清華園⁽⁷⁾のような生活

それは三階の建物別荘である。一階には鐘南山の部屋、二階は両親と妹が住んでいて、3階は父親が飼っているマウスの領地である。子どもの鐘は、かわいい白いマウスが母親から自分のためのペットだと思われて、とても喜んでいて。しかし父親が彼に言った。「父さんの実験用の動物で、おまえが面倒を見ることだ」と。それは父親のウィルス研究のために、自分のポケットマネーで白いマウスを買ってきたのである。

そうすると子どもの鐘は毎日にマウスに餌や水をやって、とても楽しかった。ペットを飼っているような心の中に、医学を学ぼうとする種を植えていた。

仕事の際に鐘家からいつもオーケストラの音楽が聞こえて、それは両親がともに福建省廈門の「鼓浪屿」の出身で、小さい頃から音楽に対してとても愛着心を持っていたからである。彼らが住んでいる「康樂園」⁽⁸⁾には知らない人から「鐘家はどこですか」と尋ねるなら、必ず「オーケストラが響いて、またはマウスの匂いがする家です」と答えるのであった。

現在84歳の鐘南山は最も愛する曲は「鼓浪屿之波」、それは彼の故郷で、鮮やかな花、緑の樹木、ピアノ、音楽、そこに彼の両親が育てられたところである。

b, 鐘家の伝統は、第1、永遠に粘り強く理想を追求する。第2、物事をするには厳密に着実に

父親は1901年アモイに生まれ、9歳の前には両親がなくなり、知人から上海までに連れられて、金持ちの家で雑用をする。仕事をしながら勉強して、ようやくアメリカ人が創立した北京協和医学院に合格して、大学卒業後アメリカに留学して、医学博士の学位を獲得した。⁽⁹⁾幼い頃の鐘南山は、父親が仕事後にもかかわらず、大人たちが子どもを抱えて父親に見てもらう事を見て、医者として病を治して、命を救うという仕事が魅力的だと心から尊敬の念を沸かされた。鐘南山は中国にて「無双英雄」を評価されて、家庭の教育を切り離さないのである。

父親は著名な小児科の専門家またはウィルス研究の著名な専門家であり、節約してポケットマネーを使い400位の白いマウスを買ってきて、家で実験室を建てた。20世紀50年代には中山医学院小児科のウィルス実験室を創立して、これが中国に最も早い臨床ウィルス実験室の一つである。70歳を超えた父親は、体が衰弱してきたが、4年間で400万字余の『小児科病気鑑別診断』を書いて出版した。これは、父親の一生の児童を診療した病気の弁別診断の集大成であった。

父親は自分の行動で鐘家の伝統を実践してきた。また、鐘南山が成長する最も肝要なところで父親から助けてもらったのである。

「人間はこの世に何かが残さなければならない」と父親が言っている。鐘南山は19歳の時、プロのスポーツ選手と医学の専門家⁽¹⁰⁾と⁽¹¹⁾をどちらにしようか迷い、人生の十字路に立った時、父親は「鐘家の伝統は、第1、永遠に粘り強

く理想を追求する。第2、物事をするには厳密に著実に」とアドバイスをした。そして、鐘南山はプロのスポーツ選手を止めて、生涯の医学の道を選んだのである。

c、「真面目の人にして、仕事をするには厳密に」と父親の指導

鐘南山は幼年時にいたずらっ子で、両親から学校への食事代を自分の小遣いとしてお菓子を買ったことにした。このことを父親が知った後、「打たれると思ったが、父親は『南山よ、このようなことが誠実なのでしょうか』と諭し、その父親の話で真面目な人間になろうとした」と鐘南山は回憶する。

文化大革命の前後、鐘南山は両親の無実の罪に関わり、11年間、医学関係のない仕事、新聞の編集やスチーム暖房の労働者をさせられた。その後、ようやく地元の広州市に戻った。ある日、父親から「南山よ、君は今年何歳なのか」と聞かれ、「35歳です」答えた。「そうなのか。35歳になった。恐ろしいなあ」と。父親に言われた後、彼は眠れなかった。意味が分かった。こんな歳になって、何もまだしていなかった。そして、全力を掛けて、毎日人より早く病院に出勤、一番遅くまで退勤、1年間、4冊の診療ノートを書き付けていた。無駄な11年間で補おうにしたのである。

父親があまりしゃべらない人間、しかし、話すときには証拠があるのである。ある時、父親と子どもの診察に、血尿が非常にひどく、鐘南山はこれが結核だと言った。父親は、「どうして？血尿があると、膀胱炎、結核、あるいは炎症がある。」「医者が人の命に関わって、十分の証拠がなければ軽く判断することができない」。父親のこの言葉が鐘南山の一生忘れられない座右の銘になったのである。

1970年代、中国には慢性の気管支炎が流行していて、調査の結果によると23.82%の中国人が慢性の気管支炎がかかっている。政府が民衆から予防と治療を展開しようと呼びかけたが、医者誰も参加したくない。なぜなら

ば、どこの病院でも慢性気管支炎を治す実績がなかったからである。しかし鐘南山が父親の意見を求めた。「困難に立ち上がって、必ずしも悪いことではない」と父親のアドバイス。そこで、鐘南山は慢性気管支炎の予防と治療の組織に入った。5年間の研究の中、彼は共同執筆論文「慢性気管支炎の漢方薬と西洋医学の結合による類別の診断と治療」を書いたのである。

さて、鐘南山の母親も教養⁽¹²⁾と学歴を持つ名家の娘である。

d, 母親からの命、よいところを称賛し、約束を厳守して、弱者を助ける

1937年、日本の飛行機の爆弾が南京に落ちた後、赤ん坊の鐘南山は瓦礫の中にあった。祖母と母親が命の危険から彼を救った。

そして、小学校に入った鐘南山は、いつも登校拒否で、2回留年したことがあったかが、母親の励みで、真面目に勉強するようになった。この母親の影響が巨大であった。「お母さんは『学校の成績がよくなったら、自転車を買ってあげよう』と、そして、学校の二番目の成績を取った。母親は「南山よ、お前がやっぱりよくできたんだ」と。実際は、あの自転車は容易に買えなかった。当時、政府が発行した金圓券の爆落で、家境も厳しかった。

日記の中に「母が約束を実行して、自転車を買ってもらって、僕はとても喜んだ」と書いた。「あの時からお母さんが自分の輝くところを見出して、自尊心を持つようになった。人が私を賛美している。そこから私は真面目に勉強するようになった」。または、約束したら必ず守らなければいけない。これは、母親から教えてもらったと彼が回憶したのである。

母親はまた、鐘南山の同級生が困ったとき、これを助けた。1955年鐘南山が北京大学医学部に受かった当時、同級生も北京大学物理学部に受かった。しかし彼は北京までの列車に乗るチケット代金はなかった。「鐘さん、お金をちょっと貸してくれる」と友達。鐘南山が母親に言い出した。しかし「南山よ、お前に用意する旅費も困難だ。仕方がないんだよ」と母親。しかし

「出発する何日の前に、母親が私を呼んで、手元に20元を持って、これを友達に持っていきなさい」と。20元は現在の800元に相当することである。

以上、学識の持つ2つの家庭教育を見てきた。中国多数の知識人の家庭教育を代表できよう。それは自分の後世を身で教育する例である。しかし大多数の貧しい農村の農民たち、あるいは学校に全然教育を受けていない家庭は、どのように子どもを教育するのか。この中で最も典型に当たるものは、ノーベル文学賞を獲得した莫言のことである。彼の講演には、母親の教育を言及していた。

3、貧困の母親からノーベル文学賞への薫陶⁽¹³⁾

莫言⁽¹⁴⁾（1955年～）は言った「文学と科学と比べると、文学は何も役に立たないが、しかし何も役に立たない文学は、最も大きな役割を果たしているかもしれない」と。彼はまた「教育も同じようである。いわゆる分数や学歴、さらに知識は、教育の本質ではない。教育の本質は、一本の木がほかの木を揺るがせる。一塊の雲がほかの雲を動かせる。一つの魂をほかの魂を喚起させる」と言っている。

2012年10月11日、中国の作家・莫言は、ノーベル文学賞を授与された講演に、文学の話ではなく、自分の母親を講演の内容にしていた。

a. 子どもを打たない母

莫言の記憶中、幼年時代の田舎は、荒地と飢饉だけであった。当時、「大鍋飯」で共同食堂に行ってお湯を取るが、彼は家の大事な魔法瓶を持ってお湯を取りに行く途中、飢饉のため、手に力が入らずに、うっかりと魔法瓶を割ってしまった。家の中の唯一の大事なものであったので、彼は大変に恐れて

草むらの中に身を逃げ込み、一日中ずっと出られなかった。夕方になると、母が彼の幼名をよんで、あちこちを探して、その喉も大声でずっと枯れてしまっていた。その時、莫言がようやく草むらの中から出てきた。母から怒って打たれる心構えをしていたが、学校に行かず、字も読めない田舎の母は、ただ長いため息をして、莫言の頭を撫でて「家に帰りなさい」と言ったのである。

b. 復讐をしない母親

幼年の生活は飢饉以外に苦痛もあった。莫言は母について集団でこっそりと、人民公社の麦畑で収穫後に落ちた麦の穂を取りに行ったが、そして麦畑の番人がやって来た。全ての人が逃げてしまった。纏足の母は早く逃げないために捕まえられた。体の大きい番人は母の顔を打って、小さくて弱い母がよろけて地面に倒れた。番人は麦の穂を回収して口笛をしながら意気揚々と去っていった。母の口から血がながれて、地面にしゃがみ込み、顔には絶望な表情が浮かびていた。莫言は一生忘れられない。何年か経った後に、村の市場である番人に会った。すでに白髪だらけの老人、当時の子どもから大きい青年になった莫言は飛び上がって復讐しようと思ったら、母から引き止められて、静かに言った「息子よ、あの時、私を打たれた男は、この老人とは別人だよ」と。

c. 慈悲心を持つ母親

過去には、田舎の皆が、いつも芋や大根を食べて暮らしていた。一年に餃子を食べるのは大きい祭日の時だけであった。

ある中秋節に、莫家が久しぶりに餃子を作って、一人に一個の小茶碗、腹の半分しかない。食べようとする時、乞食の老人が莫家の玄関にきた。そうすると、莫言は茶碗半分のほし芋をあげた。乞食はぷんぷんと怒った「私は

年寄りだよ。お前たちは餃子を食べるのに、私にほし芋を食べさせて、お前の心はどうなっているんだ」と、若々しい莫言は怒って言った「我が家は一年中、数える餃子を食べる日だが、半腹しかないよ。あなたにほし芋を上げていいのよ。あなたが食べるなら食べて、食べなければ早く行きなさい」。この話を母が聞いたら、莫言を叱って、また自分の小茶碗の半分の餃子を乞食の老人の茶碗に入れてあげたのである。

d, ちょっとした得を嫌がる母親

莫言の人生の中で、最も後悔のことがあった。あの年、彼が母について白菜を売る会計を担当していた。そしてうっかりして、一人の老人に1角(0.16円位)を多く取った。そして、彼が登校した。その後、帰宅したら、母が涙だらけになっていたのを見て、母は叱らずに、声を小さく言った「息子よ、母に恥をかかしたのよ」と。

e, 絶対に自信を持つ母親

莫言は話した「私は生まれつきの醜い顔をしている。小さい時から村人によく嘲笑された。さらに学校で何人もの横暴の子に殴られた。家に帰ったら激しく泣いた」。母が「息子よ、お前は醜くないよ。鼻と目があって、四肢も健全で、どこが醜いのだろう。それなら、お前は心が善良で、良いことをよくして、醜いとしても、格好が良くなるはずだよ」と。後に莫言が都市部に入って、ある文化知識の持つ人は依然と隠してまた莫言の前で彼の顔を嘲笑した。莫言は母の話を思い出して、あの人たちに穏やかに、「わたしは醜い顔ですみません」と謝まったのである。

f, 知識を尊重する母親

母は字が読めないが、学問に対して、尊重するのである。莫家の生活が困

難でいつも食べ物がない状態で、しかし莫言は本や文房具を買いたいなら、母が彼を満足させるのである。母は勤勉で、怠け者が大嫌い、しかし勉強するために莫言が農業をしないことを許してあげる。ある時、市場には講演者が来て、莫言はこっそりと講演を聞いて、母から頼まれた農業を忘れてしまった。そのために母に叱られた。夜、母が油のランプの光の下で、家の人に綿入れの衣服を作るとき、莫言は昼間に聞いた物語を母に伝えて、最初は母があまり聞きたくないが、彼女が心の中におしゃべりする人は、まともな仕事に就いていない人だと思った。だんだんと莫言は復唱した講演者の物語が母の趣味を沸かした。そうすると、毎回の市場の日に、母は莫言に農業を頼まず、息子が市場に行って、物語を聞きに暗黙の了解をした。母に感謝するために、また自分の記憶力を見せるために、莫言はいつも昼間に聞いた物語を生き生きとして母に聞かせたのである。

g. 夢を追う子どもを支持する母親

莫言は田舎で21年間生活していた。その中で最も遠いところは、青島に行ったことがある。青島に行ってから、木材の大きい工場の中に迷っていた。帰宅した後、母に「青島にはどんな風景なのか」と聞かれたとき、木材しか見えなかったと答えた。このきっかけで、莫言は貧困の田舎から離れるのは、21歳で解放軍に入ったことであった。その時、母が結婚時のアクセサリーを売って、4冊の『中国通史簡編』を彼に買ってあげて、解放軍の入隊をお祝いしたのである。

このように莫言の母は、一本の木あるいは一塊の雲のように、莫言の良心の魂を喚起させて、優れた文学作品に創作させたのであろうか。

終わりに

以上のように、3つの家庭の親を通して、教養をいかに子どもに与えるのかを考察した。その中には、知識人の親、医学専門家の親、学校に行ってなく字が読めない貧困の農民の親があった。結論として、まず、どの家庭の親も、真実で正直な人間、正義感と同情心を持つ人間である。そして、知識と学問を持つ以上、人間の道徳心が強い親である。または、自分の身をもって模範を示す親である。最後には、子ども自身の特徴と力を鋭く見出して、正確な教えとアドバイスと助けをすべきだという親の役割なのである。

文頭に提出した素質教育のことについて、やはり音楽、体育、美術といったその発達も大事であるが、人間としての根本的素質は何かを、親として忘れてはいけなないのであろうか。

そして「教養」の育ちは「10年樹木、100年人間」のように、少しずつ積み重ねて、優秀な中国伝統文化と一緒に世代代で絶えず、人間の内在の革命によって、教養が全国民で必ず開花することを心より願っている。

注

- (1) 屠呦呦。1951年に北京大学医学院に入学し、薬学科で学び、1955年に卒業した。その後、2年半のあいだ伝統的中国医学を学んだ。卒業後、北京の中国中医研究院（現在の中国中医科学院）に勤めた。改革開放の後、1980年に初めて研究員に昇進し、2001年に博士課程における相談役 (academic advisor) に昇進した。現在、彼女は科学院の首席研究員である。https://ja.wikipedia.org/wiki/ (20200224閲覧)
- (2) 「屠呦呦来自哥哥的鼓励」<http://www.satcm.gov.cn/hudongjiaoliu/guanfangweixin/2019-10-10/11281.html> (20200224閲覧)
- (3) 屠呦呦の研究チームは1971年までに、マウスで試験して、ヨモギの一種クソニンジン（黄花蒿）からの抽出物が、動物体内でのマラリア原虫の活動を劇的に抑制することを突き止めた。そのうちの一つの合成物に効果が

認められた。屠呦呦は人間自身としての最初の被験者となった。<https://ja.wikipedia.org/wiki/>（20200225閲覧）

- （4）「スイスで中医学の認知度はますます高まっている」と、鍼治療・アジア医学アカデミー（Chiway）のジモン・ベッカー学長は言う。当アカデミーの認定書は国家資格としても認められている。屠呦呦さんのノーベル賞受賞を喜び、ベッカー氏は言う。「中医学にはまだ発掘すべき宝がたくさん眠っているという証拠だ。」<https://www.swissinfo.ch/jpn/20200225>閲覧
- （5）鍾南山は医師、医学者、衛生学者、現国家卫生健康委員会専門家グループ長。専門は疫学、呼吸器学、臨床医学。2002年—2003年のSARSの感染拡大時、感染の中心地となった広州市呼吸器疾病研究所の所長を務めていた。SARSの脅威を低く見積もる衛生部や疾病予防管理センターの見解に実態と異なる発表を行え、事態の深刻さを訴えた。論文ではじめてSARSという病名を提案し、重症のSARS患者を自身が所長を務める広州市呼吸器疾病研究所へ積極的に受け入れ、有効な治療法を見出して死亡率や入院期間を低減させた。<https://ja.wikipedia.org/wiki/20200225>閲覧
- （6）楊振寧（1922～）。中国物理学者。1957年ノーベル物理学賞を獲得した。
- （7）「清華園」1822年に建てられた皇家のガーデンの一部で、現在、北京市内の清華大学のキャンパスになっている。<https://baike.baidu.com/item/>（202002028閲覧）
- （8）「康楽園」は中山大学の広州南校園の海珠区内、珠江の傍にある。園内には清朝末期と民国初期の建物で、2002年8月から「広東省文物保護地」になった。<https://baike.baidu.com/item/>（20200224閲覧）
- （9）「北京協和医学院」は1917年、米国ロックフェラー基金の援助を受けて設立。1919年から8年生の医学本科教育を開始した中国で最も早期に8年生臨床医学専門教育を始めた医科大学。校名は「私立北平協和医学院」、「中国協和医学院」、「中国首都医学院」、「中国協和医科大学」と変遷したが、2007年に現在の「北京協和医学院」となった。https://spc.jst.go.jp/education/univ/univ_066.html（20200225閲覧）
- （10）鍾南山が1960年北京市の運動会で、彼は男子十種競技準優勝を獲得した。<https://ja.wikipedia.org/wiki/>（20200225閲覧）
- （11）鍾南山が1960年北京医学院（現在の北京大学医学部）を卒業した。<https://ja.wikipedia.org/wiki/>（20200225閲覧）
- （12）鍾南山の母は協和医科大学から卒業し、華南腫瘍病院（現在の中山大学

腫瘍防治中心)の副院長を務めたが、文化大革命で自殺した。<https://ja.wikipedia.org/wiki/> (20200226閲覧)

- (13) 「貧困の母親から文学ノーベル賞への薫陶」について、「莫言诺贝尔文学奖演讲全文:《讲故事的人》」より http://www.wenming.cn/book/pdjj/201212/t20121208_974718.shtml (20200215閲覧)
- (14) 莫言は中国の作家。山東省高密県河崖鎮平安村で生まれ、貧しい家庭に育ったが、文学的素養があり、小学校でいつも作文を褒められていた。だが、小学5年生の1967年、文化大革命で中退され、牛の放牧をする毎日に。この頃「いつか作家になって、1日3食おいしい餃子を食べる」という夢を抱き始める。1976年、21歳で郷里を離れ、中国人民解放军に入隊。作家になるという夢が再燃、執筆活動を始める。1981年、保定市の雑誌「蓮池」に人生初の短編小説「春夜雨霏霏」が掲載される。1984年秋、中国人民解放军芸術学院文学部に入学。短編小説を80作品以上、中編小説を30作品、長編小説を11作品など、数多くの作品を英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、日本語、韓国語など10数か国の言語に翻訳されている。<https://www.recordchina.co.jp/b65452-s0-c30-d0000.html> (20200226閲覧)

参考文献

- (1) 『诺贝尔获奖者屠呦呦』 <https://baike.baidu.com/item/20200210> 閲覧
- (2) 『无双国士钟南山』 <https://www.bilibili.com/read/cv4516851/20200130> 閲覧
- (3) 『莫言在诺贝尔获奖演讲』 <https://baike.baidu.com/item/20200213> 閲覧